



## 第4章 下水道事業の効率化・健全化への取り組み

### (投資計画)

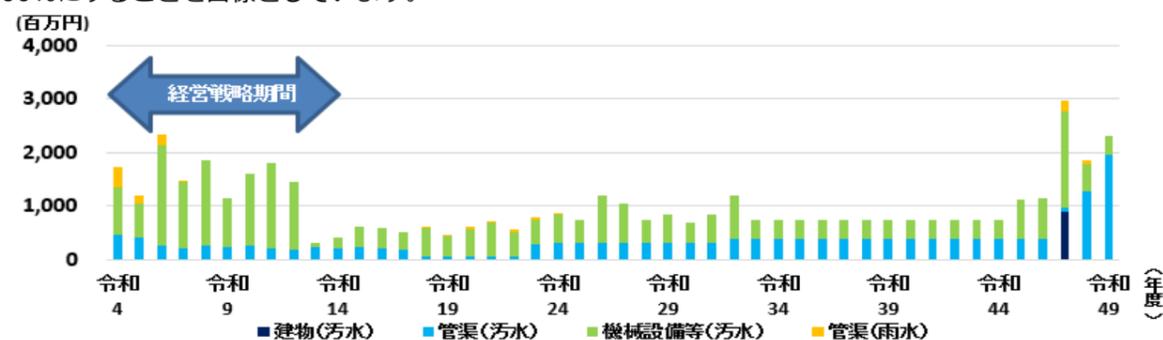
#### (令和14年度までの重要な投資目標)

- ・浄化センターの耐震化率を100%とする。
- ・浄化センターのストックマネジメント第2期計画までの老朽化対策率を100%とする。
- ・西田川排水区雨水整備事業の整備率を100%とする。

浄化センターについては、令和元年度から耐震診断を実施し、令和4年度から耐震化工事を行っています。令和7年度以降に残りの施設についても耐震診断を行い、診断結果を基に更なる耐震化を進めていき、令和14年度までに耐震化率を100%にすることを目標としています。

令和4年度からストックマネジメント計画による老朽化対策工事を行っており、令和14年度までにストックマネジメント第1期、第2期計画による浄化センターの老朽化対策率を100%にすることを目標としています。

西田川排水区雨水整備事業については、平成28年度に流出解析、平成29年度に実施設計を行い、県河川である西田川上流にある旭地区の浸水対策として国の西田川水門改築事業、県の西田川河川改修事業と調整を行いながら、道路に雨水函渠を埋設する工事を平成30年度から着手しており、令和6年度までに雨水函渠の整備率を100%にすることを目標としています。



図表6 今後の投資予定額

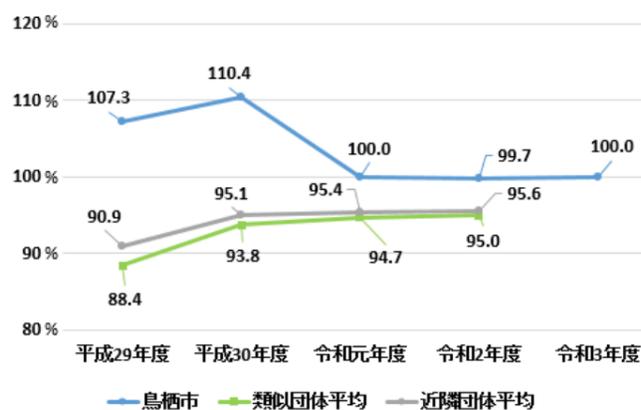
### (財政計画)

#### (令和14年度までの重要な財政目標)

- ・経費回収率を100%とする。
- ・企業債残高対事業規模比率を1,100%とする。

令和3年度の経費回収率は、100%と類似団体平均値を上回っています。今後も100%を維持していくため、経費削減などの効率的な経営などを行うとともに、使用料水準の検討を行っていくことにより使用料収入を確保し、令和14年度における経費回収率を100%とすることを目指します。

また、企業債残高は計画的な返済により徐々に減少しており、令和3年度時点で約187.4億円となっています。一方、収入に対する企業債残高の比率は類似団体と比較して依然として高い状況です。一定の投資は実施しつつも、企業債負担を将来へ先送りにしないように、今後も投資に対する計画的な起債と返済を実施し、令和14年度における企業債残高を160億円にし、企業債残高対事業規模比率を1,100%とすることを目指します。

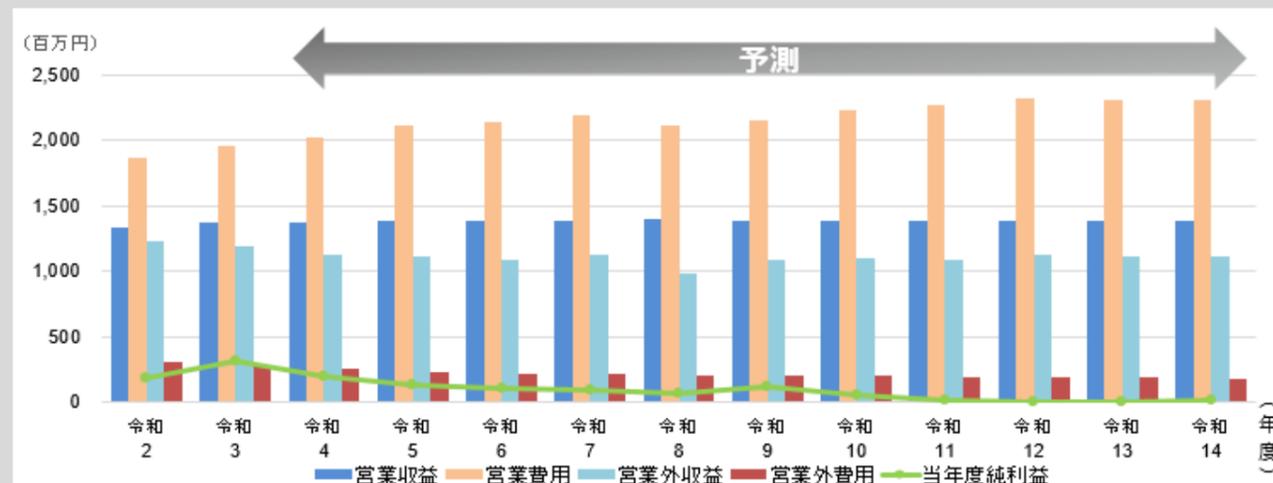


図表7 経費回収率の推移

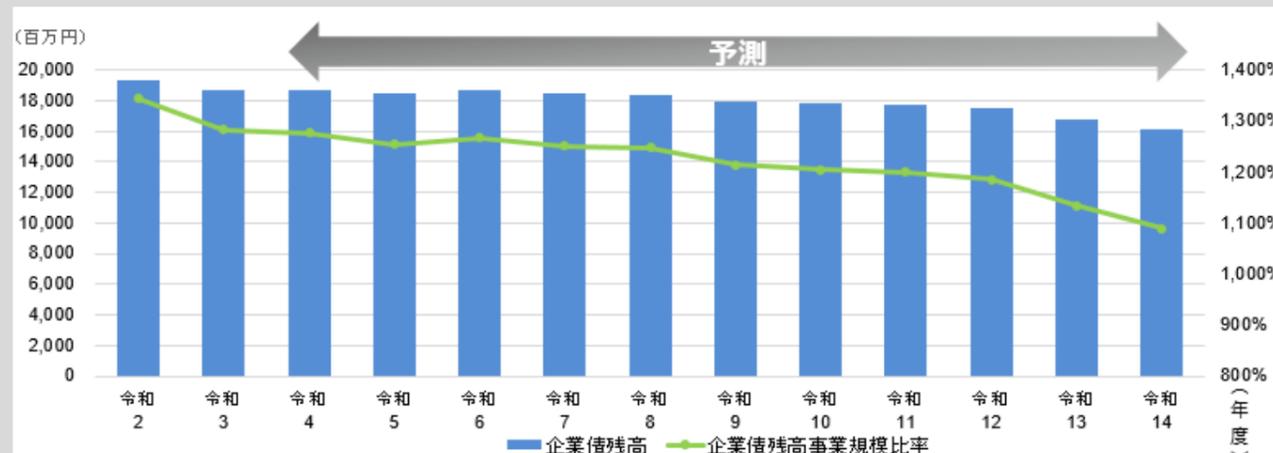
## 第5章 投資・財政計画

### (投資・財政計画シミュレーションモデルの作成)

一定の前提条件のもと、投資・財政計画シミュレーションを実施しました。



図表8 営業収益、営業費用、営業外収益、営業外費用、当年度純利益の推移



図表9 企業債残高の推移

### (投資・財政計画シミュレーション結果)

シミュレーションにおいては、更新投資に伴う減価償却費の増加などにより当年度純利益は減少が見込まれるものの、毎年当年度純利益を計上し、企業債残高対事業規模比率は目標を達成する見込みです。一方で、今後も景気の変動など外部環境の変化により、経営状況も変化する可能性があるため、状況に応じ、使用料改定、組織や事務事業の効率化、施設管理の見直し等、経営基盤強化のための取り組みを推進することが必要です。

## 第6章 経営戦略の事後検証・更新等

### (計画の推進の点検・進捗管理の方法)

経営戦略の推進のため、毎年度、目標指標の達成状況を把握することで進捗管理を行います。国の制度変更や、全体計画区域等の変更により、経営状況に大きな影響を及ぼすと考えられる場合には、本経営戦略の見直しを予定することとします。また、5年に一度、経営戦略における投資・財政計画と実績との乖離及びその原因を分析し、その結果を経営戦略等に反映させるPDCAサイクル（計画策定「Plan」-実施「Do」-検証「Check」-見直し「Action」）を導入し、目標の達成状況や見直した経営戦略を市民のみなさまへ公表します。



図表10 PDCAサイクルのイメージ